

2020年度業務実績報告書

提出日 令和3年1月15日

1. 職名・氏名 講師 東知宏

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護、授与機関 兵庫県立大学、授与年 平成22年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護学原論Ⅱ（2）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の歴史的変遷や保健・医療・福祉システムの現状を踏まえて、これからの看護を展望する。ナイチンゲール以降の看護理論に関する文献をもとに、看護のメタパラダイム（中心的概念）である人間・環境・健康・看護について考究する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すためグループワークを多用し、調べた内容については全員が発表に参加できるように、個人発表とし、その後内容についてディスカッションを行った。ディスカッションにはZOOMのブレイクアウトルーム機能を利用した。 ・医療安全と看護の関係について、統計データからの読み取りに始まり、ヒューマンエラーの構造、医療安全に対する認識など多角的な方面から講義し、理解が深まるよう工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術Ⅰ（2）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、観察の技術および安楽に整える技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。 ・ZOOMを用いた遠隔授業であったため、伝わりにくい看護技術のポイントは動画を用いて説明した。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。小テストはLMSを活用した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術Ⅱ（2）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、対象の生活過程を健康的に整えるための基本的な表現技術、対象の理解を深めるためのコミュニケーション技術および対象の安全を守る技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。

・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。 ・小グループに対して教員がデモンストレーションを行い、技術のイメージ化を促した。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・独自に作成した事例に基づき患者役・看護師役を体験し、演習終了後自己評価させることにより、臨床での技術の活用を意識できるよう促した。 ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストおよび実技テストで確認した。 ・コロナウイルス感染に対する大学の方針に合わせて、授業のスケジュールを調整した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術Ⅲ（1）：2年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指し、診療に伴う技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。 ・ZOOMを用いた遠隔授業であったため、伝わりにくい看護技術のポイントは動画を用いて説明した。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。小テストはLMSを活用した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 フィジカルアセスメント（1）：2年次
②内容・ねらい（自由記述） 人間の全身の状態を的確に把握するために、系統的行う身体診査であるフィジカルアセスメントの意義や具体的方法(フィジカライグザミネーション)を学習する。さらに、看護過程を展開する技術を学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の主体的な学習を促すため、単元ごとに基礎知識や演習内容に関する予習（視聴覚教材の視聴を含む）を課した。 ・基本的な看護技術を身につけるため技術の根拠、重要ポイントを明示した。 ・ZOOMを用いた遠隔授業であったため、伝わりにくい看護技術のポイントは動画を用いて説明した。 ・学生によるデモンストレーションおよびグループ討議を行い、学習効果の定着を図った。 ・演習では学生を小グループに分け技術修得のための訓練を行った。 ・単元終了後に知識と技術の修得度を小テストで確認した。小テストはLMSを活用した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅰ（1）：1年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護が機能する場である病院の概要を知るとともに、対象の療養生活の場としての入院環境に対する理解を深める。看護の対象・看護の実践を理解し、看護学生として必要な態度を身につける。生活過程の援助を中心とした対象とのかかわりを通して、対象への感性および表現技術を高める。既習の看護理論と看護の実践を照らし合わせ、看護の果たすべき役割・機能について考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。 ・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整

えた。 ・学生個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。 ・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅱ（2）：2年次
②内容・ねらい（自由記述） 対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・体調管理、身だしなみ、態度などの基本事項を指導し、自身の看護師としての姿勢について考えることができるよう促した。 ・学生がまなびやすいよう、実習環境（医療スタッフとの連絡調整、必要物品の整備等）を整えた。 ・学生が患者の個別性を踏まえた看護実践を展開することができるよう、個々の進捗状況に合わせた個別指導を行った。 ・グループカンファレンスを通して学生個々の学びをグループメンバーで共有した。 ・
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護研究方法論（1）：3年次
②内容・ねらい（自由記述） 看護実践における研究の必要性、演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究の特長と具体的方法について修得する。主に実験研究・調査研究、質的研究について概説し、実際の研究論文を用いて研究手法の基礎知識を深める。また、人を対象とする看護研究の研究倫理を理解し、具体的に研究の倫理的配慮の方法を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・研究を行うための入念な文献検索および文献検討について、学生自身で関心のある文献を探し、クリティークすることにより、学生の興味を引くことができた。 ・実験研究に関する講義においては、実際の論文をクリティークしながら説明することにより、実験研究の手法や結果の読み解き方を教授することができた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3）：4年次（2017年～）
②内容・ねらい（自由記述） 講義や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・ZOOMを用いたゼミ形式での文献クリティークを行い、研究課題の明確化を促した。 ・研究計画書の作成では、研究として成立できるか、実現可能かを確認しながら指導を行った。 ・論文の作成では整合性が取れているか、一貫性があるか確認を行い、指導した。 ・研究結果のプレゼンテーションでは、要点を的確に表現できているか内容の確認を行った。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
・ 科学研究費助成事業（基盤 C）（2019～）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
・ 日本看護研究学会近畿・北陸地方会コーディネーター ・ 第 36 回福井県看護学会運営（令和 2 年 9 月 16 日、福井） ・ 第 31 回看護研究継続セミナー企画、運営（令和 2 年 11 月 16 日、オンデマンド開催）	

5. 地域・社会貢献活動

- ・ 福井県看護協会学会委員（福井県看護協会が主催する学会の企画運営、令和2年4月～）
- ・ 岡保地区未来づくり協議会委員（岡保地区における地域活性化に関わる検討および啓発活動の実施、看護の専門家として参加、令和元年4月～）

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・WEB授業WG（令和2年4月～）
- ・実習検討委員会（平成29年4月～）

(3)学内行事への参加

- ・オープンキャンパス模擬講義担当
- ・入試説明会看護福祉学部担当（仁愛高校、敦賀高校）

(4)その他、自発的活動など